

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 -)

事業所番号	0690700117		
法人名	十和建设株式会社		
事業所名	グループホームこもれび		
所在地	山形県鶴岡市八色木字西野335-5		
自己評価作成日	平成25年 11月11日	開設年月日	平成24年 3月 7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に基づきゆったりとした雰囲気の中で、入居者の方が一人ひとり自分らしい生活ができるように掃除や食事作り、地域行事への参加等役割を持っていただけるよう支援しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市検町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成25年 12月 9日	評価結果決定日	平成 25年 12月 26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設2年目を向え来春1ユニット増設の計画が進行している。理念に掲げるように「家庭的な雰囲気の中で、その人らしく生活できる環境作り」を大切にしている。理念の共有と実践のための「職員のケアの理念」では、利用者の思いを汲み取ることを第一に掲げ、利用者本位のケアが出来るよう努力している。管理者及び職員は、利用者の暮らし方の意向や要望を大切に、一人ひとりの残存機能を活かし生活が継続できるよう、楽しみ事の支援や役割等を介護計画に組み入れ支援している。管理者等は常に、問題意識をもち、その解決に向け前向きに努力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設としての理念、職員が目指すことを事務室や廊下、更衣室に提示している。	法人の理念を基に管理者がその方向性を検討し事業所の理念を作成している。その理念を基に職員会議等で話し合い、職員の意見を踏まえて日頃のケアの目標となるべき「ケアの理念」を作り見やすい場所に掲示している。職員も家庭的な雰囲気を大切にし、利用者の希望を大切に普段から取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事等に参加している。また、散歩の際は地域の方にあいさつをしたり、施設行事に参加して頂けるように呼びかけるなど等交流を図っている。	昨年の目標達成計画に従い、地域の行事や公民館での行事等積極的に参加していると共に、事業所主催の行事に地域の住民の参加の呼びかけ等取り組んでいる。地域小学生の訪問や子供の会の訪問等交流が増えている。町内会には来年度より加入の方向で検討している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通し、事業所で行っている活動などを報告している。	/	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所、入居者の状況、サービスについて報告し、お互いに意見や情報の交換を行っている。それを職員間でも共有しサービス向上に生かしている。	町内会長、民生委員、老人クラブ代表、婦人会、市職員等で2ヶ月に1回開催されている。事業所の状況や取り組みの報告が行われ、委員からは防災に関する意見等が出されている。事業所で行われた家族・職員のアンケート結果も報告され、開かれた会議になっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月に一度介護相談員に訪問していただき、意見やアドバイスを頂いている。	行政窓口には、運営推進会議を通じて、事業所の状況、取り組み等が説明されている。介護相談員を通して、事業所の実状等に沿ったアドバイス等も頂いている。個別の案件には、窓口と電話等でのやり取りを行い、疑問点や困難事例に対し問題解決に向け協力関係を構築している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	入居時に身体拘束について家族に相談し、状況に応じている。ヒヤリ・事故検討会を行い安易な拘束をしないように話合っている。玄関は夜間のみ施錠で、日中は開放しチャイムを使用し安全を確保している。	会議等で話し合い職員に周知を図っている。事業所では、会議等で、危険に繋がる行為等その原因や工夫を話し合い、見守りを強化し寄添いながら危険性を排除し、鍵をかけない工夫や、不適切な対応の無いよう工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修へ参加し職員間でも、会議や復命書等で情報交換を行い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員が理解しているとは言いがたいが、研修などに取り組み理解を深めるよう努めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は疑問や不安がないか確認し、十分に説明を行うように努めている。個人の物で購入が必要になった場合はご家族に相談しながら協力していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、アンケート調査を行っている。介護員の訪問や、家族会代表の方にも推進会議に参加していただき、意見や情報交換を行い、運営に反映させるようにしている。	昨年の目標達成計画に従い、家族会を開催し意見や要望を表す機会を作っている。家族等にアンケート調査を実施し、意見等頂きサービスの向上に繋げている。介護相談員により利用者等が外部に意見を表す機会も設けている。職員は面会時等家族と接する場合には積極的に意見や要望を伺い職員会議等で検討するよう努力している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	アンケートを実施し意見や提案を聞く機会を設けて、反映させるように努めている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得を奨励し、資格手当を設け、給与に反映し環境整備に努めている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれに合った研修の機会を確保している。また復命報告にて、職員全員で情報等を共有しサービスの向上に努めている。	外部研修の年間計画を作成し、適任者を研修に派遣している。外部研修の成果は会議等で報告され、職員への周知を図っている。職員アンケートを行い普段のケアの振り返りを行い力量やケアの実際の把握が行われている。事業所内の研修も取り組まれている。	身体拘束・虐待防止等各種マニュアルの整備を行いその活用等を通して、事業所内の実践的な研修を重ね身近に職員のスキルアップが図れるような機会の確保とそれらを年間計画に位置付けられるような取組みについて期待したい。	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	鶴岡市介護事業所連絡会・県GH協会庄内ブロック等の研修や交流会に積極的に参加している。	グループホーム連絡協議会が主催する行事や研修に参加すると共に、地域のグループホーム間での交流や地域ケアネットワークでの交流等、情報交換の場がもたれている。その情報等を基にサービスの向上に活かしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族に今までの生活されてきた環境、日々の様子の聞き取り、記録をもとに要望、希望を傾聴し関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会、通院で来荘された時は、普段の様子をお伝えし、なるべくご家族の希望、要望を伺うようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族、職員間で話し合う機会を設け、その内容に沿った支援を行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人と職員と一緒に楽しみながら、ご本人のできること、やりたいことを見つけていくように努め、関係づくりをしている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との連絡を図り、受診結果や普段の様子を伝えともに支えていく関係を気づくようにしている。定期受診の際は、現在の状態を情報提供書に記入、説明し、情報を共有している。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご親戚、知人、ご家族の方々に面会に来ていただき交流の機会を設けている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご本人の個性や体調などを考慮し、日々の活動や行事に参加し、入居者同士の関わりを持っていただいている。 また職員が間に入り会話などに繋げている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後に入居中の写真を送付したり、ご家族より相談等があれば丁寧に応じている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人、ご家族の意向を充分に取り入れ、状況に応じながら対応している。	センター方式を一部取り入れながら、利用者一人ひとりに寄り添い、会話やしぐさ等から気づき等を話し合い、本人本位に検討している。家族等からも意見を伺い思いや意向の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	記録の参照やご本人、ご家族から来荘時や電話での聞き取りを行い、聞き取った生活習慣を参考にサービス提供に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録や日誌を活用し、一日の過ごし方や健康状態を把握し個々に合ったできる事をしていただいている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族からの要望を聞き、担当職員や他職員からも意見等を出してもらい、定期的に見直しを行っている。またケース会議にて問題解決を図るなどし介護計画を作成している。	毎月のモニタリングと3ヵ月毎の計画の評価を行い、職員会議やケア会議の中で話し合い、職員の意見やアイデアを取り入れ見直しを行っている。その人らしく生活が出来るよう、残存機能を活かしながら詳細な計画になっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段からミーティングなどで日常の気付きを報告し合い、ケース記録に記入し職員同士で共有している。また、ケアに活かせるよう職員会議等で検討している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月介護相談員の受け入れを行っており、二ヵ月に一度運営推進会議を行っている。地域の子供会の協力を得たり、地域の祭りに参加、施設行事に招くなど交流を図れるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>通院時、往診時に情報提供書を作成し、医師からの指示等をご家族、職員間で共有している。</p>	<p>かかりつけ医は家族や利用者の希望を大切にしている。事業所内での状況等を記した情報提供書を通して、医療機関、家族、事業所で情報を共有し適切な医療が受けられるよう支援している。原則家族による通院支援であるが、状況に応じて事業所による支援も行われている。</p>		
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>利用者の状況報告、相談しその指示に従い健康管理に全職員が努めている。</p>			
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>主治医や協力医療機関、看護師と相談し、情報交換を行い関係づくりに努めている。</p>			
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に方針を説明し、重度化した場合もご本人、ご家族、医療機関等と相談、連携を図りながら支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居時から重度化した場合における対応にかかる指針を基に事業所で出来る事出来ない事等の説明が行われている。利用者の状況に応じて繰り返し話し合い方針の共有が図られている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時マニュアルを作成し直し、全職員に理解を図り緊急時にはすぐに対応できる場所に置き、看護師等の指示を仰いでいる。また、心肺蘇生法等の訓練も行っている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内では入居者も参加し毎月避難訓練を行っている。毎年二回は消防署、町内会などの協力を得て避難訓練を行っている。	毎月避難訓練が行われている。2回は消防署、地域住民の参加があり、協力関係の構築に努力している。消防署からのアドバイスを受け、避難済み、非難前が外部者に判るような仕組みも取り入れている。	水害等広域災害に向けた対策の検討等についても期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員入居者個々に合った接し方、言葉かけを心がけている。会議などで対応などについて話し合いや確認をしている。	会議等で研修を行い周知を図ると共に普段から誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に注意している。職員同士会議等で話し合い振り返りながら不適切な対応が無いよう努力している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人に合わせた対応をし、要望などを傾聴している。また、自己決定できるような質問などを働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望等を聞き、全職員が情報を共有し尊重できるように支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人、ご家族の希望に合わせて衣服の選択支援を行ったり、出張サービスの利用等をしその人らしい身だしなみができるように支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に個々の能力に合わせ、食事の準備、片付けをしてもらえるように感謝の言葉を伝えながら支援している。また、日々の生活を観察したり聞き出したりすることで嗜好調査をしている。	3食とも事業所内の台所で調理し、利用者が職員と一緒に同じ物を食べながら家庭的な食事になるよう支援している。利用者の希望や状況に応じて調理の過程に加わって頂いている。嗜好調査等を参考に利用者の好みに合わせた献立に取り組んでいる。外食や季節に応じた行事食も取り入れ、食事を楽しむことが出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合った食事量、形態で提供するように心掛けている。体重の増減がみられた場合は看護師と連携し調節している。水分摂取も声掛けやボカリゼリーなどの提供で確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後うがいや歯磨きを促し口腔ケアを行っている。自分で行っていただくように声掛け等の支援を行い、不十分なところは職員がケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄のパターンを把握し、仕草や様子を見ながら声掛け、誘導している。	利用者の排泄パターンを把握しながら適時の声かけ誘導により排泄の支援を行っている。なるべくトイレに誘導し、自立に向け効果を上げた利用者もいる。計画に排泄支援を具体的に位置づけ評価を繰り返し排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、個々の状況を把握し下剤の使用だけでなく、牛乳、ヨーグルト、くだものなどを献立に取り入れている。また365歩のマーチに合わせて歩行訓練を実施し予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの健康状態や希望を把握し、体調不良時等は足浴やシャワー浴で対応し、入浴を楽しめる支援をしている。	利用者の希望に合わせて時間等対応している。入浴を楽しむことができるよう、職員との会話を大切にしたり、入浴剤等を使ったり工夫を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの今までの生活リズムをご家族やご本人に聞き、把握し日中の運動やレクリエーションなどを取り入れ夜間ゆっくり休んでいただけるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方内容を確認し、理解するように努めている。職員間ではダブルチェック、写真での照らし合わせのセットを行い飲み忘れや誤薬のないようにしている。また、内服時は個々に合わせて内服方法を実施しており、飲み込むまで確認し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	力を活かせるように皿拭き等をしてもらい見守り、支援している。レクリエーションや行事、外出等で楽しみや気分転換を図れるように努めている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	まだまだ一人ひとりの希望に添えているとは言い難いが、散歩やドライブ等に行っている。通院以外でご家族と出かけられる機会はあまりないが、協力を得て出かけられる機会を作るよう努めていく。	行事やドライブ等で遠くに出かける機会の確保や、散歩、買物、庭での水やり等戸外に出かける機会を確保している。個別に馴染みの場所への外出支援や、家族の協力依頼による外泊等の支援も行われている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行事として買い物ツアーを行い、ご本人自ら選び、買い物をしていただく機会を設け支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの希望があったときには電話の取次ぎ支援を行っている。大切な方への手紙や年賀状を書いて頂く行事を行っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビを見たり音楽を聞いたりできる環境や、温度やにおい等も刺激がないように入居者に確認しながら居心地が良くなる工夫をしている。また、四季ごとの装飾をリビングの壁に施し、季節感を感じてもらえるようにしている。	季節感のある飾り付けや、思い出の写真等が掲示され、カーテンや遮光の窓で外光が調節され、床暖房で暖かく、温度湿度等が管理され、毎日清掃が行われ清潔感あり居心地がよい空間となっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置きテレビを見たり、談笑したり、自分の席で新聞や将棋など思い思いに過ごされている。また玄関前にイス、ソファを設置しており、外の景色を見たり休憩所として過ごされる方もいる。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使用していた家具や日用品等馴染みの物を持ち込んでいただいたり、飾って頂いている。また、配置などもご本人やご家族と相談し、安全で居心地の良い空間になるよう工夫している。	利用者が使い慣れたものや馴染みのものが持ち込まれ、一人ひとり思い思いの配置や飾り付けがなされ居心地の良い空間になうよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は手すり設置や段差のないつくりになっており、安全な環境にしている。また入居者の背丈や目線に合わせ、居室やトイレ等わかりやすく表示し自ら居室に行ける等自立した生活がおくれるように工夫している。		